

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 りんごの花		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 9日		～ 令和8年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 9日		～ 令和8年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	令和8年 2月 9日		～ 令和8年 2月 27日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保育士、言語聴覚士、理学療法士それぞれの専門的な視点から発達、特性を助言することで集団の中で過ごす本児と先生方双方の困り感を軽減することができる。	施設の理念や担任、サポートの先生の方針を尊重し、本児にとって何に困ってどのような支援が有効かを専門職の視点から支援の方法を先生方と一緒に考えることを意識している。振り返りなどの質問に対してできるだけその場で答えるようにし、わからない場合は事業所に持ち帰り、支援員や職員に相談してその日に電話で伝えるようにしている。	毎日本児に関わる先生の方針を熟知し、本児の良いところや先生方の関わり方で良かったところを伝えることで発達や特性、支援の方法を先生方に理解してもらいやすいようにわかりやすく助言をする。また、先生方が困っていることを軽減できるように話しやすい関係を作っていく。
2	事業所を利用している子の通っている施設に訪問することで連携が取りやすく、より深く本児の様子や関わり方を共有して支援することができる。また、保育所等訪問のみの利用児にも、集団の中で個別に支援をすることで観察や助言ができたことを見つけ支援の方向性を的確にすすめることができる。	個人情報の取り扱いには十分注意し、範囲内で本児の様子を通園・通学先と共有しながら有効な支援の方法や方向性を提案している。	「集団で行える本児に有効な支援」を先生方としっかり話し合っていながら提案していく。また、訪問日以外の様子を聞き取ることで持続できる支援の方法や方向性を見つけて共有していく。
3	施設で過ごしている本児の様子を保護者に送迎時や電話、メール、連絡帳で伝えることで安心して子育てができるよう支援を行っている。	報告する際、本児の様子他に前回と比較してできたことや支援した様子も含めて伝えるようにしている。また、トラブルがあったときは原因や双方の行動を観察した範囲内で相手の名前を伏せて伝える。	保護者が通園・通学先に対して要望や想いを代弁できるよう信頼関係を作り、支援計画に沿って施設でどのような支援が有効かを丁寧に説明していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援員が送迎等で不在、面談中等で訪問後の報告が十分にできない。	報告する意識の低さ、業務の計画不足。	報告を支援した日に毎回行うよう徹底する。 報告した日や、誰にどのような方法で報告したかを「実施報告書」記入して施設長に提出する。
2	保育所等訪問支援の周知の低さ。 保育所等訪問の種類や制度に対して施設側が混乱している。	初めて事業所からの保育所等訪問支援を利用される施設側には、初回会議でパンフレットやイラストでの説明をしてご理解していただいた上で保育所等訪問を開始させていただく。保護者からの依頼であることを伝える際、誤解を招かないように説明する。支援の説明をする際は具体的に伝える。	保育所等訪問は「施設側の先生方と一緒に子どもを支援していく、支援の方法と一緒に考えましょう」であることを丁寧に伝えていく。一方的な支援にならないよう、訪問が開始する前に施設側の理念や方針を熟知しておく。本児が集団で過ごせるように、担任、サポートの先生方の方針、方向性を把握した上で相談しながら支援の方法を提案していく。
3	訪問日に急遽休暇を必要とする場合支援員の代替えがない	支援計画に1人の本児に対して支援員が1人で行っている。その為、支援員の体調不良や急な都合により休暇を必要とする場合、訪問支援を変更、中止しなければならない。	2人の支援員で対応する。情報共有し、代替時支援内容を決めて実施する。